

(地域別) 新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた取組について

活動(拠点) 地域	活動分野	新たな取組や工夫していること(令和2年10月時点)
市内全域	高齢	<p>●2月25日より休業・休館措置が始まり、6月30日まで当法人主催のイベント・活動はもとより、利用登録団体さんの活動も中止・延期を繰り返し、その調整、連絡、広報に翻弄され、`お知らせ`を14号も発出した。</p> <p>7月1日より諸措置が解除されたが、一部活動の自粛延長や利用定員制の実施、3密防止のソーシャルディスタンス順守などにより、以前の体制には程遠い。新たな取組や工夫していることなど：消毒液、マスク(有償)、フェイスシールド(有償)、上履き(有償)の常備。「感染拡大防止中ステッカー」の貼り出し。「喫茶あおぞら」の三方アクリル板設置(6基)、マイクスタンドアクリル板(3基)、足形シール、受付等ビニールシート設置。役員、スタッフによる玄関での誘導作業(消毒、検温、入場者名簿記入、マスク・上履きチェックなど)。長期間におよぶ自宅待機からの心身の復帰を促進するため、「地域高齢者ケア講座」に`フレイル`関連講座を加え、開始した。`集いの場`、関連の活動(「お話ししよう」、「お楽しみ全員集合」)を統合し、「みんなで集う場」を立ち上げた。ルーム別定員制が長期化することを考慮し、リモートルームの設置を検討している(Wi-Fi設定検討中、ジャズにて8、9月有線にてトライアル)。</p> <p>●3密回避の厳守、及び会場の利用者数制限により、市との共催事業3件、カラオケ大会(6月)、運動会(10月)、芸能大会(11月)、及び市老連事業の生き生き体操、料理教室の一部が中止となった。過去、戸倉野球場で催された運動会には毎年250名近くの高齢者が参加していたが、今年度は中止となり、運動会の代わりに、10月17日(土)同球場でペタンク大会を開催する(参加人数約70名)。令和2年度3月には、毎年70名近くが参加する「教養講座」を福祉センターで開催予定だったが、人数制限40名弱のため、会場をリオンホールに変更した。</p> <p>●公共施設再開後、早急に体操クラブ再開。体操は出来ないが自粛期間中の定期的な電話連絡から、週に1回外に出る機会を作り、友人と顔を合わせる場を作った。密にならない座席設定・検温・マスク着用・消毒など公共施設での予防対策を徹底し、精神的安定と体操の必要性を確認し、独自に開発した健康づくりノート(冊子)で勉強会を行った。</p> <p>7月には新型コロナウイルス感染予防のガイドラインを担当課へ提出し、許可を得て体操再開。内容は人数制限、2m確保のためクラブを分割し、人同士の接触、備品の共有が無いように体操中は個々の椅子から離れない、必要な物はそばに置く、持ち物は最小限にするなど、制限した指導となった。当初はかなりの筋力低下が見られたが3ヶ月が過ぎ著しい回復が見られ、体操をしている方々が継続の重要性を実感している。再開後直ぐに広い会場のみ体力測定を実施し、3ヶ月の自粛による高齢者の筋力低下のデータから実態の分析を行っている。</p>

●地域生きがい事業は、第2期8月より再開した。3密の回避・参加者やスタッフの健康状態の把握・手指の消毒・ソーシャルディスタンスの確保及び清掃など、基本的な感染予防対策を講じ実施しています。実際に講座を行ってみて、講座ごとにフェイスシールドやマウスシールド・ビニール手袋の着用など、その講座の特徴に合わせ対処している。また、密を回避するために机や椅子の配置を工夫したり、休憩時間の過ごし方にも十分な注意を払っている。今後も感染者を出さないためにも、参加者・スタッフの新型コロナウイルス感染予防に関する啓発が必要だと感じている。

高齢・障害

●事務所での会議は3密にならないよう事業部・管理部に分けて実施し、定期的に代表者がすり合わせを行っている。人数によっては公共施設を利用している。

- ・会議前にメールなどで内容や要点を知らせ、会議が時短で終了する様に心がけている。
- ・9月より理事会等にリモート会議を取り入れている。
- ・公開講座は定員数を3分の1程度にしている。また、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、その他の方法（Zoomの活用・DVDの作成・講座資料の配布など）についても検討している。
- ・後見業務については、感染防止に取り組みながら面談や訪問を行い、支援者とも連携をとってご本人が地域で安心して生活できるよう支援している。

子ども

●新型コロナウイルス感染症流行後、「家から出るのが怖い」「人が集まる場所に行くことが不安」など、子育て中の方からの不安の声が多く聞かれた。

- ・国分寺市内の親子ひろばなどでの助産師相談を一時中止していたが、電話相談という形で対応を行った。緩和後、徐々に対面での助産師相談を再開し、感染対策に留意しながら対応している。
- ・感染対策として、対面でのイベントを中止し、オンラインでの卒乳の講座を開催した。各回15名程度の子育て中の方が参加くださり、「自宅から参加できてよかった」「実際に外出するよりも準備が少なく済んだので、子連れで参加しやすかった」という感想が寄せられた。

社協

●3月より、職員全員に毎朝体温測定を実施し、記録を付けている。37.5度以上ある場合は、出勤停止としている。また、職員間に当初はビニールシートを天井からぶら下げ、途中からは卓上の防護板を設置している。これは、コロナ対策で貸付を担当することとなり、多いときは一日数十人の相談者もいるため、その方々への防護対応も含めている。さらに、アルコール消毒液の設置・利用促進を図るとともに、非接触型の体温計を設置し、来場者には必ず検温をお願いしている。〈ボランティア活動センター〉

- ・おうちでできるボランティア⇒「マスク作り」「飲食店等応援ポスター作り」「ウエス作り」「年賀状編」など展開。
- ・ひとり暮らし等高齢者地域交流会⇒既存の方法での交流会は中止したが、各会出来る形で利用者の安否確認や健康維持ができる新たな形での交流を検討・実施。・見守り訪問事業⇒6月下旬より活動再開。訪問に対し不安な利用者に対しては電話等で安否確認する。また、訪問するサポーターへ除菌シートを配布し活動の一助とした。

- ・運営委員会をオンラインで実施⇒6月よりオンラインを活用して会議を再開。オンライン参加が難しい委員はボラセン2階会議室で参加できるよう環境整備も行う。〈ファミサポ〉活動を継続している方々へはマスクなどの防護用品を配布し、ご協力いただいている。職員が訪問する際も、マスクは必ず着用し、携帯型アルコール消毒を常時携帯し使用している。〈法人運営部分〉
- ・3月以降、理事会、評議員会いずれも書面での決議としている。議案の調整等は、開催回数を減した役員会で行っている。
- ・会員会費の一部より「国分寺市医師会」に寄付を行う取組も初めて試みた。イベント等もほぼすべて中止としている。国分寺市と共催の敬老会も中止とした。職員の都外への旅行も9月末まで自粛とした。

障害

●令和2年度市身障協会及び各部会総会が開催できず、機関紙122号「あおぞら」特別号を発行し、会員、賛助会員に配付。機関紙「あおぞら」123号発行（春夏合併号）。定例役員会は6月より実施（於まほろば）。視覚部会は10月11日（日）いずみホール（B）に於いて活動開始。各サークル（言語、編物、水墨）活動は9月より再開（於福祉センター）。休止していた会場の貸し出しが始まり、新型コロナ対策をして活動が始まる。

地域

●社会を明るくする運動の活動も、コロナ禍の中、活動を模索している。今の子ども達は活動の場が制限されていることから、更生保護女性会活動の一端である青少年健全育成の一助にすべく、子ども達の居場所づくりとして「たまりば」活動を継続している。日時を決め、来る子ども達に検温、消毒を徹底させ、管理者をおいて「たまりば」を開放している。

- 日本語教室・語学教室：一部オンラインを導入。対面希望者も多く、会場と併用している。
 - ・日本語教室では、アクリル仕切りを利用している。
 - ・活動時のマスク着用、換気、手指消毒（部屋入り口にも消毒液を置く）、密にならないよう声がけ、場合によってはフェイスシールドを着用している。

東区域（国分寺地域包括支援センターもとまち・こいがくぼ・ほんだ エリア）

東元町

高齢

- 窓口や職場のデスクにアクリル板のパーテーションを設置、毎日の消毒作業を継続している。緊急事態宣言後に、事業所内の感染予防マニュアルを見直して対応している。
 - ・衛生材料(使い捨ての手袋や消毒液)が不足していた時には、職員で手分けして購入した。
 - ・コロナ禍でも実施可能な企画を立案(規模縮小、チラシによる普及啓発、会議の代わりにアンケート実施)
 - ・研修：オンラインで参加できるものはなるべくオンラインで受講。
 - ・コロナフレイル(筋力低下)が気になる高齢者に対する対応を検討中(第二層協議体)。

子ども	<p>●利用できる定員が各部屋決まっているため、来館者に腕輪を渡し、現在児童館に何人利用者がいるか把握出来るようにしている。また、入口に利用者の人数を掲示し、密になることを心配している利用者が、館内に入らず外からでも、現在何人利用しているかわかるようにしている。3密を避けるためクイズラリー形式で利用者が館内で分散するような遊びを提供している。今回、避難訓練も普段通りできなかったが、クイズラリーを取り入れながら行った。紙製のカード類はプラスチック製のカバーで覆い、遊びの種類をなるべく減らさないよう努めている。消毒のための一時閉館を含めた閉館5分前には放送を入れて、手洗い・手指の消毒のアナウンスを入れ、声掛けも行っている。</p>
自治会	<p>●公民館が閉館のため会員名簿の作成ができなかったが、開館してから印刷は1人で行い、人数を限って、ディスタンスをとって製本した。募金はウイルス感染の危険性を指摘する時期があったため、時期を遅らせて実施した。会報の回覧（ほぼ2回/月）で情報の伝達を図っている。</p>
西元町	
障害	<p>●通所事業は従来どおり班活動（少人数）により継続している。施設内の感染症対策について、状況に応じた利用者への支援に努め、適切な対応を行っている。</p>
南町	
障害	<p>●通所施設や支援センターの交流室へ飛沫防止シートやパーテーションの設置を進めている。そういった集まる場の感染防止を強化し、徐々に規制を緩和しながら飲食やプログラムの再開、活動の充実を目指している。</p>
泉町	
高齢	<p>●カラオケは人気の高い活動のひとつであり、できるだけ多くの利用者様に参加してほしいと考えているが、密接を防ぐ為、午前、午後6名ずつと人数制限をしている。間をあけて座り、聴いている方はマスクを着用、歌う方の前にはパーテーション アクリル板を設置している。</p> <p>・利用者様の各テーブルにパーテーション アクリル板の設置を検討している。</p>
障害	<p>●緊急事態宣言が解除された後の取組として、障害者センター全体では、入館される方には入館時に健康管理表の記入をお願いしている。また、職員による館内の定期的な消毒を実施している。喫茶いずみは、テイクアウトのみ営業を再開している。つばさでは、プログラム及びフリースペースの活動再開は、「緊急事態宣言解除後における国分寺市の公共施設再開のフロー」に基づき、段階的に準備の整ったものから再開した。スポーツ系のプログラムを再開することは、障害者センターの活動場所の換気等、施設環境上困難であったため、地域の施設を利用し、土曜日または日曜日に月1回スペシャルプログラムという形で再開している。今後も活動場所を障害者センター内にとどめず、地域の施設利用やボランティア活動等、地域とのつながりをつくるきっかけになるような活動を検討していきたい。また、相談業務については、相談室の換気、消毒を行い、マスク着用の上実施しており、必要な訪問、同行も再開している。</p>

西恋ヶ窪（東戸倉含む）	
個人	●将棋ボランティアの活動は接触リスクが高いため、個人宅につき2回訪問して、玄関で10分程度近況を聞き取り調査をしている。
高齢	●サロンは広い会場も少人数で開催するようにしている。コロナ禍での活動をしている団体に感染予防対策を助言している。懇談会など出席者が多くなり、対象をしぼる必要がある時はアンケートなどで意見を聴き、フィードバックするようにしている。地域の高齢者にマスク配付する時は、コロナ対策や自宅でできる運動などのチラシを同時に配付している。こいがくぼだより（広報誌）に、上記と同様な記事を載せている。医療機関と連携を取り、コロナの為に必要な受診を受けず心配なケースについて、情報共有できるようにしている。
民生委員	●一人暮らしの高齢の方などについて、訪問に替えて外から家の様子を観察する見守りや、外出先でお会いした際に声掛けを行うなどの対応を続けている。
本町	
個人	●大学教員をしているので大学の方針に従っている。オンライン授業となり、学生が集まらないようにしている。 ●日常生活から高齢者のステイホームは想像以上に体力、筋力の衰えが大きく影響していると思う。街の中で会っても、マスクをしているのでその人がはっきり分からず、人との交流が少ない中で笑えない表情が多くなっているように感じている。出来るだけ電話等で近況報告をし合っている。
本多	
高齢	●民生児童委員への新型コロナウイルスに伴って変わった地域の情報や高齢者の状況を電話で聞き取りし、少しでも孤立しない環境の構築に努めている。月1回開催していた包括主催サロン活動については通常よりも参加人数を少なくし、感染予防対策を講じたうえで実施。参加者からは「待っていた」、「久しぶりに会えてよかった」といったうれしい声も聴かれ、今後の開催意欲にもつながった。毎年度開催していた地域高齢者のおしゃべりの場の開催は今年度は難しく、かわりに自宅でやっている楽しいことを電話や訪問等で個人から聞き取りをし、新聞に掲載し地域へ配布する活動を実施。一人ひとりの声が会わずとも人に伝わることを実践したいという思いから実施。今後もできること、やれることを探していきたい。
障害	●講師を依頼しての講演会をオンラインで実施することを検討中。

●当会は知的障がいのある人の親の会で、会合を行う際の感染防止対策（3密にならないよう広い会場を利用し、マスク着用、手指衛生、検温等の体調管理を徹底し、2時間以内で終了するよう心がけ、食事を伴う会合は行わない）を会員に周知し、7月より会合を再開した。知的障がいのある人やその親が感染した場合、ご本人を一人にすることができないことや、ご本人が入院や療養生活に適應できるか不安が大きいので、障がい特性に配慮した対応の準備を国分寺市に要望した。また、日中活動（通所）先やグループホームで感染が広がった場合にもできる限り日常生活を維持できるような対策を国分寺市に要望した。有効な感染予防について新たに分かってきたことなど、正しく理解するために、感染管理認定看護師を講師に招いて、会員向けの講演会を開催予定している。

民生委員

●全ての事業を中止している中で、新たな取組は難しい。ひょうたん島サロンも、公民館が開館したので、7月に行ったが間隔を取って座っている為、一人ひとりを遠く感じた事と、話が聞きづらかったなどで、盛り上がりには欠け、楽しめなかった様だ。8月はCafé やしの樹で行ったが、9月からは感染者増により中止している。なるべく電話をし、様子を聞く様にしている。

東恋ヶ窪

経済

●新たに取り組み始めたことはありませんが、引き続き感染防止対策を実施している。混在していない時には、店内への入場者数制限、出入口の一方通行措置を緩和している。

個人

●地域包括支援センター関係をはじめ、他のボランティア活動は新型コロナウイルスの為に活動停止状態である。自治体活動も休眠状態、自治会役員会は継続開催。個人的には出来る限り家にひきこもりにならないように、3密にならないように留意し、体力、免疫力の増強に努めている。近隣の人達との絆の維持に努める。

高齢

●法人で行動自粛要請の基準に従い、業務中はもちろん、休日の過ごし方も各職員が医療福祉従事者として節度を保った行動に努めている。また、月一回法人でPCR検査を全職員に対して実施しており、無症状感染者などに十分注意し、感染の水際対策をしている。

子ども

●恋ヶ窪保育園は、4月7日の緊急事態宣言を受けて、子どもだけでなく職員の3密を避けるために、子ども、保護者向けに、
①登園時に検温。クラスでの朝の挨拶は、大きく口を開けずに小声で。
②保育室でのテーブルは密に座らず、人数制限を設けて(机を新規購入)、空気清浄機を購入し配置、壁掛け扇風機を設置し、空気の入れ替えの流れを作る。
③4月から9月までの大きな行事は中止。9月以降開催の運動会は、規模縮小、入れ替え制にして実施。
④保護者の送り迎えは、玄関で消毒をし、原則部屋には入らず玄関または廊下まで。
職員向けとして、
①体調が悪く熱等が続く場合は、直ぐに報告。勤務を休んでもらう場合有。
②4月から5月末まで職員体制を3グループに分け、1グループずつ在宅勤務。またグループ内で陽性者が出た場合は、そのグループのみ全員休み。残り2グループで勤務を廻した。
③年末年始での休暇を取得する場合、県をまたぐ場合等は、事前申請し、連絡が取れるようにしておく。

障害	●障害者センター利用中止で、当分月1回第1土曜日の`であいの場、はお休みしている。7月に会報発送、次回11月発送予定。言語リハ`たんぽぽ、は、7月より本多公民館で第2、第4月曜日午前にて再開した。電話での個人対応は引き続き行っている。役員会は月1回本多公民館を利用して行っている。12月のクリスマス&忘年会については、現在、会場探しをしている。
地域	●1. 会合では①マスク着用 ②消毒(除菌) ③距離を保つを徹底し、徐々に回数も増やしていきたい。 2. 個人的には散歩と、自宅ではミニ卓球台を購入し運動している。 3. 皆さんには食事や運動で免疫力を高めようと訴えている。
西区域(国分寺地域包括支援センターひよし・ひかり・なみき エリア)	
戸倉	
地域	●福祉センターでは、市と協議を行い、利用する各団体に感染予防策を講じていただき、話し合いの上で活動を再開している。1日3回の巡回を徹底し、消毒を定期的に行っている。個票の記載と保管を行い、自主事業の工夫を図る。「子ども食堂」の新たな取組として、地域の店舗と家庭の橋渡しをセンターで行う取組を実施。具体的には、店舗のお弁当を福祉センターで、申込制で、格安販売を行い、地域の店舗の応援と家庭の食事支援を実施。
日吉町(内藤含む)	
個人	●市担当者の指導を仰ぎながら、グループ毎に活動ガイドを作成し、少人数グループ活動を実施した。毎回、開催前後には、手指の消毒を履行するとともに、体温の測定、記録を行っている。
高齢	●マスク着用や手指消毒、ソーシャルディスタンスの徹底を継続している。 ・感染対策を徹底している場面を利用者へ見ていただくと、安心して受け入れてもらえることを実感している。感染対策をしながらの活動を積極的にお伝えするようにしている。 ・次第に、新型コロナウイルスへの緊張感が緩む心配もあるため、必要に応じて注意喚起をしている。 ・機関紙(ひよし新聞)を定期的に発行し、地域への情報発信や関係者とのつながりの維持をしている。 ・コロナ禍における精神的ストレスを抱えている高齢者の把握と、ケアマネジャーとの情報共有をしている。 ・体操や活動の紹介をしている。

- 法人内全事業所を対象にした感染拡大防止策として、対策本部を設置し、施設全体の感染予防、拡大防止策を周知徹底する。
 - ・感染症対策委員会主催による、新型コロナウイルス感染予防対策ウェブ研修を開き、出席できなかった職員にはDVD研修等で、施設全職員が視聴し、アンケート提出。
 - ・出勤時の手指アルコール消毒と検温、常時マスク着用、3密を防いだ会議室、休憩室等の利用、更衣室の利用等は継続して実施中。
 - ・面会禁止としていたが、10月からリモート面会開始。
 - ・中止していた理髪を、予防対策を取りながら再開。
 - ・提携病院の国分寺病院の主治医の指示を仰ぎ、予防策と拡大防止策を国分寺病院の基準に合わせて実施を継続している。

子ども

- 園庭の使い方…とても広い園庭ではあるが、人数（クラス別に）を制限し、密にならないう活動している。行事の変更…9/26（土）の運動会は中止とし、その代わりとして10/7（水）に体操参観日として行事を見直した。幼児クラスのみ1クラスずつ行い、保護者の参加は各家庭2名までとした。やなぎっこ祭りは夏から秋へ変更し、園庭で学年ごと密にならないよう工夫するよう計画している。秋の遠足は公共機関の乗り物は控え、近くの公園を利用し、お散歩遠足という名目で遠足の雰囲気味わえるよう内容を工夫していく。
- 各自の持ち物…各自持ちのコップ、タオル等を園管理とし、園のコップやタオル（ペーパータオル）を使用する。又、コップは使用する度に洗浄、消毒（電解水を使用）をしている。

自治会

- 1. 緊急事態宣言発令のため、4月13日（月）～5月30日（土）の防犯パトロール15回中止した。
- 2. 私一人で町内の15公園を中心に防犯パトロールを実施した。
- 3. 防犯パトロール・ミーティング中もマスクを着用した。
- 4. 防犯パトロール・ミーティングでは、密にならないように配慮した。

民生委員

- 民児協の活動では：6月の取組シートで回答のとおり、感染拡大予防対策をしっかりとった上で活動を再開している。70人以上の民生・児童委員の集まる定例会は東部地区と西部地区に分け、短時間で開催するよう工夫している。現状で定例会の中止が続けば委員の孤立も心配されることから、委員同士の情報交換や担当地域の中で心配事、困っていることはないか確認する必要があると考えている。今後もこれ以上の感染拡大がない限り開催する予定である。
- 委員としての地域活動では：サロン活動では6月以降、集まらなくても人と人のつながりが保てるよう、軽食をお配りする形に変えて実施している。会場までは筋力低下予防のため、歩いて来ていただくようお願いしている。また、お会いして安否確認し、少しお話をしたり地域情報をお知らせすることでつながりを確認している。社協の高齢者地域交流会の会食会は今年度中止と決まったが、私の地域ではお手紙により参加者とボランティアとの相互交流を続けている。

光町	
高齢	<p>●感染拡大防止対策は個人の判断ではなく、法人で施設内の会議室等全ての面積あたりの定員を設けたり、マスク+フェイスシールド又はゴーグル着用での面談をルールとして実施している。現在も3人以上の会食は禁止。越県についても届出制となっており、万が一感染した際に経路を確認できるよう努めている。センターでのケース会議などでは、独自に個人情報取扱いシートへの署名を頂いているが、新型コロナウイルス感染拡大対策として、感染時に追うことが出来るよう、個人へは連絡先を頂くことを話し合った。</p>
子ども	<p>●消毒、時間、人数制限など。学童保育所と併設館なので、学童の子どもたちがいる間は来館することができない。夕方5時半からの来館なのでほとんどの子が児童館を利用できない状況がある。午前中は幼児親子さんの利用が少しずつ増加している。子ども家庭支援センターと違って予約制ではなく、おもちゃも多いので利用していただいているが、おもちゃや三輪車、施設などの消毒に気を使っている。ソーシャルディスタンスをとるためにベンチやソファなどには手作りの人形を配置している。</p>
高木町	
個人	<p>●三密をさけ、巣ごもり生活をする中、幸いなことに会員の大半が自治会の会員で、なおかつ老人会の会員であるため、連絡等がスムーズになされ日頃の活動が良かったと再認識。集会室の使用不可、各自筋トレ体操を週一回自宅でするよう提案するも、実施した方は3割。それでも野球で3割打者は一流と思えば。</p> <p>・朝食前の検温、血圧測定、買い物等を含めた散歩を行う。巣ごもりになれ、テレビ中毒になり、歩く距離が大幅減。これらから体力減により、様々な病が発生するかもしれない。不安がいっぱいである。</p>
西町	
子ども	<p>●児童館は開館したが、消毒の時間を設けている為、その間閉館となってしまう。その際、子ども達が近隣やプラザ入口で遊んでしまうので、公共施設の入口であることを伝えたり、近隣に迷惑にならない様に話をしている。地域センター、生きがいセンターの利用者には、来館時の体調管理とマスクの着用、手指消毒を引き続きお願いしているのと、利用者自身で使用した部屋の消毒をお願いしている。</p>

民生委員

●新型コロナウイルス感染症拡大の為、自粛期間が長引き通常の活動ができない状況が続いているが、公共施設の使用も緩和されてきている。民生委員活動を行う上で留意事項を守り、新たな取組や工夫しながら活動を再開している。

■民児協の日常活動：月一度の定例会は、2月から開催は中止となったが、7月から会議の効率化を図り1時間に短縮して、東部地区と西部地区に分けて開催している。小中学校の授業再開に伴って、朝の登校児童の見守り活動も行っている。担当地区の学区連絡会は、授業再開後の7月下旬に学校側と開催場所と時間を相談して短時間で開催した。コロナ禍のなかで新たな学校の取組や児童の様子など、情報交換することができた。

■担当地区での日常活動：一人暮らしの高齢者の地域交流会は、社協と協議の結果、今年度の開催は中止と決定されたため、感染症防止策をとり、相手の体調にも配慮しながら、月1回は利用者さん宅を個別に訪問している。お顔を見ながら様々な（生活全般・健康面・心配事など）お話を聞いて状況を確認している。またお会いできない時は手紙をポストに入れ、電話で確認している。利用者さんは、「私のことを気にかけて、わざわざ会いに来てくれたことがとても嬉しい」と言ってくださり、平時のつながりが大事だと感じている。

■個別支援活動：新たな取組として、感染症防止策をとり、相手の方の体調にも配慮しながら、担当地区の避難行動要支援者に登録している要支援者の安否確認を始めた。コロナ禍のなかでどうされているのかとても気がかりであったが、無理のないよう順番に訪問している。お留守のときは外からも目視で確認している。

新町

個人

●現在の生活を守り、極力密を防ぐため、雨の日、晴れの日でも自転車で移動している。

●隣近所で特別な事はしていませんが、皆さん個々では、国分寺市、都、国などからの注意事項は大変良く守っている。

障害

●当協会総会が開催できず、書面採決の方法で行った。今年度の行事などはほぼ中止しているが、対応方法は検討中。

並木町（富士本・北町含む）

高齢

●都・市・法人の指示のもとに、感染マニュアルを確認し、感染対策を実施しながら日ごろの相談業務にあたっている。
・地域活動について大人数であつまることができない状況があるため、3密を避けながら個別に状況聞き取り等を行い、地域の住民や団体との関わりを持っている。
・定期的に顔を合わせる場が無く、必要な人に情報がいきわたらない課題もあるため機関紙等を発行し、少しでも繋がりや情報の伝達に努めている。

子ども

●冒険遊び場では、6月16日(火)より、予約なしの3部入れ替え制。満員時にはツイッターでお知らせ。室内の換気をしながら、間の時間に消毒を行っている。人数制限があることで、一組ひとくみに寄り添うことができやすくなった。入口にスタッフがいて、通りかかりの親子への声かけや見学をお勧めしたり、お話をしたりしている。コロナに対する考え方や自粛に関しては色々な考え方があるので、丁寧に対応するように心掛けている。また、市内の情報も変わることが多いので、常に新しく正しい情報を更新し、ご案内したり、SNSでお伝えしている。